

第 8 回八王子市歴史遺産活用検討会

議事録

(発言者 敬称略)

日時 令和元年 11 月 11 日(月)午後 6:30～8:30

場所 生涯学習センター（クリエイトホール） 第 2 学習室

1. 開会

- 市 第 6 回歴史遺産活用検討会（7 月 22 日開催）では、歴文構想素案に対して皆様からご意見をいただいた。その後、事務局にて内容を精査した案にて教育委員会定例会で協議し、文教委員会に素案として報告した。その後、10 月の 1 か月間、パブリックコメントを実施しており、後ほどその報告も行う。9 月 18 日には検討会の皆様に八王子城跡や裏高尾周辺を視察いただいて、その活用についてご意見をいただいた。最終的な確認が必要な部分はまだあるが、編集用ソフトを使用したデザインにまで落とし込んだ段階であり、ほぼ完成に近い状態として本日お配りしている。
- レイアウトについては、今後も写真や図面の挿入や調整が発生する。文言については、歴文構想の後半にルビや注釈が不十分な箇所が残っているものの、おおむね固まってきている。引き続き、残り 1 か月程度で仕上げていく。
- 本題に入る前に、先月の台風 19 号による八王子城跡の被害状況、および昨日実施したイベントについて、文化財課長より報告させていただく。
- 市 台風 19 号により、八王子城跡では 6 か所で大きな被害が発生した。特に、橋が損壊したことによりメインのルートにダメージが出た。林道も通行止めとしていたが、現在は御主殿まで通行できる状況に回復。一方で、損壊した橋の下から遺跡の痕跡らしきものも発見された。
- 10 月には北條氏照まつりに参加させていただいた。昨日は八王子車人形と民俗芸能の公演が出演者・スタッフ 100 名を動員して盛会のうちに終わった。今年の公演は特に、小学生からも歓声が上がるような、見ごたえのある内容だったと思う。
- また、9 月に中央線開通 130 周年を迎えたということで、郷土資料館特別展の図録『八王子と鉄道』（増補改訂版）を本日配布している。人気で増刷を重ね、第 4 刷まで出版している。
- 市 お配りしている高齢者向けのハンドブックでは、4 ページめくったところから、八王子の歴史について掲載させていただいている。他所管との連携をイメージしていただく参考にさせていただきたい。
- 歴文構想の経過については、10 月 25 日に歴文構想について文化財保護審議会に内容を報告したところ。
- なお、10 月をもって文化財保護審議会の委員が改選され、本検討会の相原委員、加

藤委員には引き続き審議会委員をお願いすることとなった。また、紺野委員、内野委員も新たに審議会委員に就任いただくこととなった。

市 前回検討会にて指摘いただいた内容を受けて歴文構想の修正を行ったため、主な変更点をご報告したい。

4 ページ。従来の文化財行政から大きく切り替え、関連文化財群を活用した日本遺産の取組も推進していくことを踏まえ、関連文化財群を活用することで地域の活性化につなげていく流れに言及するよう修正した。

20 ページ。自然に関する写真が少ないとの指摘があったため、写真を掲載した。

104 ページ～105 ページ。「八王子の歴史文化の特徴」の項目順が関連文化財群の掲載順番と一致していないが、こちらは修正する。

109 ページ。歴文構想では 10 の物語を設定するが、新たな文化財の切り口や新たな文化財が出てきた際には物語を追加していく可能性があることを追記した。

110 ページ。歴史文化の特徴と関連文化財群の表について、ジャンルで並べるのではなく物語の順番に並べ、順番の整合をとった。

212 ページ。本市で発生した過去の災害の状況を把握し、ハザードマップの作成や周知も進めていくことを追記した。

213 ページ。文化財の多面的な活用について、MICE の推進に絡めてエクスカージョンやユニークベニューなど具体的な用語を記載した。

213～214 ページ。「八王子駅南口集いの拠点整備基本計画」に新郷土資料館について記載があり、基本構想・基本計画は策定済み。これらから抜粋した記述を付け加えたほか、国宝や重文の公開が可能な公開承認施設を目指す方向性を記載した。

歴文構想の冒頭にはグラビアページ、市長・教育長対談ページを追加し、目次については 8 つのコラムを追記した。コラムは、関連文化財群や地域の特色の切り口として本編で紹介できなかった内容を取り上げるもの。

このほか、資料編として、270～273 ページに市内における歴史文化に関する取組事例を追加した。

2. 検討事項

(1) 歴文構想の意見募集実施結果について

市 10 月 1 日から 31 日までの 1 か月間、市役所、郷土資料館、各市民センター等において、歴文構想に関する資料を置き、お持ち帰りいただける概要版を配布して、意見募集を行った。10 月 1 日号の広報にも掲載し、リリース日に数件問合せがあった。今後、いただいたご意見に対する市の考え方を市のホームページにて公開する流れとなるが、その前に本検討会にて市の考え方に対するご意見を頂戴したい。

資料の通り、16 名からご意見をいただき、33 件のご意見として整理した。意見の種類としては、歴文構想全般に関わるもの、八王子市の取組全般についてなどがあった。

(市の考え方に関する説明は省略、配布資料参照)

本編に反映できるご意見は反映し、反映しきれないご意見も出来るだけコラムなどで取り上げていく方針。

- ・ パブリックコメントを提出したご本人にも回答を戻すのか。
- 市 ご本人に対する個別の回答は行わない。これはパブリックコメントの庁内ガイドラインに則った対応であり、意見募集に際してもその旨は伝えてある。
- ・ 表紙をもっと馴染みやすいようにしてはというご意見が上がっている。私は地域づくり計画の会議にも出席しているが、そちらでは逆にもっと堅くしてはという意見が出た。人によって感じ方が異なるということだろうが、私はこれで良いと思う。
ただ、表紙「百年の計」の下にある「特集～はちおうじ物語～」という記載が気になる。この歴文構想全体が特集という仕立てになっていると読み取られてしまわないだろうか。特集は何を指すのだろうということがすぐに分からず、よく見ていくと、第4章を指しているらしいと分かる。たとえば、章タイトル「第4章 八王子の関連文化財群」に「～はちおうじ物語～」などと続けたほうが良い。
- 市 歴文構想そのものに対するご意見もいただければと思う。ちなみに、表紙イラストの色は、新緑から紅葉に変わる四季のイメージを織り込んだ。
- ・ 昨年夏以降、8回の検討会を重ねて、重要な部分については精度を高めてきたと思っている。パブリックコメントは、概要版を見ていただいて感じたところをコメントいただいているので、十分な文章を見ていただいたうえでのご意見ではない。ご意見は貴重なものであるが、事務局におかれては、出来るかぎり歴文構想の趣旨を尊重しつつ調整いただきたい。
気になった点として、掲載されている写真にキャプションが入っているものと入っていないものがある。また、75 ページに「木遣」とキャプションが入った写真があるが、「八王子消防記念会・木遣」などとしたほうが良い。完成後にこのような指摘が出ることをないように目を通していただければと思う。
- 市 無形文化財に関して、文化財行政としては保存団体も重視している。73 ページからの「地区の歴史文化を知るためのキーワード」の中で、表に「主な歴史文化資源」を記載しているが、無形文化財については保存団体も記載している。キャプションについても、なるべく丁寧に書くようにしたい。
- ・ 冒頭の橋本豊治氏によるレリーフは、一般の方からするとどこにあるのか分からない。文中には記載があるが、キャプションとしても記載したほうが、場所がよく分かり、今度見に行ってみようという動きにつながる。
- 市 場所をキャプションに追記する。なお、このレリーフは、実物を見ながらデッサンされていたり、時間軸を意識した構図になっていたり、まさしく歴史が未来に続いていく様を描いたものであり、歴文構想における歴史文化の考え方にもびったりだと思っている。

先ほどご説明がもれていたが、前回検討会にて、第5章 209 ページ以降の基本方針において、もっと写真を掲載してはというご意見もいただいた。レイアウトの方針が固まってきたため、市の現状が分かるような写真を追加したい。

- ・ 八王子城の歌にこだわりたいのだが、資料編にでも、そのようなものが存在することを書けないか。教育委員会推奨の歌でもあるため、ぜひご検討いただきたい。

市 歌詞ではなく、歌の存在そのものを掲載するイメージか。

- ・ 歌詞まで紹介できると良いと思う。

市 歌詞は著作権の問題で手続きが必要となる可能性がある。

- ・ JASRAC に登録されているかどうかにもよるし、あるいは著作権を放棄しているかもしれない。ただ、歌詞まで載せなくても、そのような歌があることを紹介できればと思う。

市 八王子城跡三ッ鱗会の紹介の中で、歌についても盛り込めるかもしれない。

- ・ 北條氏照祭りでもこの歌を使った踊りがあるなど、結構活用されている。
- ・ 115 ページ「朝廷に献上する馬を育てた牧」について、由比牧と小野牧に言及されているが、読んだ人はどこにあるのかびんと来ない。同ページにて、「北大谷古墳（大谷町）」という表現をしていて、同じように「由比牧（何々町）」と表現したほうが丁寧なのでは。
- ・ 専門的には、どこからどこまでが由比牧ということが特定できない。牧の碑は建立されたものの、遺構の調査などは行われておらず、古代史の研究者の間でも見解が揺れている状態。そのため、具体的な位置を書くことには懸念がある。

市 今後の見通しについて。今月末で内容を固めて、印刷作業に移っていく。今月中にいただいたご意見は反映できるが、次回検討会は印刷が仕上がって以降の開催となる。

市 補足すると、教育委員会内の意思決定の手続きに進めるための資料としては、今月末に内容を固めて印刷を開始する。最終的には、1月の1か月間をかけて、印刷を外注して完成することになるため、本当に固める最終タイミングは年内いっぱい。

- ・ 写真等も基本的にはカラーか。

市 すべてカラー。なお、写真等については許可などもしっかり手続きしている。

市 より良い写真を載せられるように、最後まで見直しをかけていきたい。

- ・ 表紙では「特集～はちおうじ物語～」、奥付では「歴史文化基本構想」がサブタイトルのようにになっている。読み手に混乱が生じないよう整合を見直したほうが良い。

市 事務局の思いとして、関連文化財群の章だけを切り取っても成立するようにしたいと思っていた。そのことをうまく表現できればと思っている。

市 210 ページの図「実現の方向性と基本目標」は、編集時に位置がずれてしまった。正しくは 209 ページに掲載すべきものであるため、修正する。

また、奥付について、現状は教育委員会の電話番号しか掲載していないが、ユニバーサルデザインの観点から FAX 番号、メールアドレスも掲載する予定。

- ・ 基本方針「わたしたちが守り育てる みんなのふるさと八王子」を表紙に掲載しても良いのでは。
- 市 もともと、基本理念が構想終盤になって示されることには違和感があった。グラビアページの3行「桑都八王子の歴史文化を 次の100年へ… そしてその先へ…」を基本理念に差し替えようとは考えているところ。
- ・ この構想は、読んでいて初めて知ることが非常に多かった。
手間になる修正かと思うのでご検討いただきたいが、たとえば、構想に掲載されているボランティア活動に参加したいと思った方が情報にアクセスできるようにQRコードなども掲載されていると、新しい行動につながって素敵だと思う。
- 市 214ページに SNS などによる情報発信の方向性について書いているが、SNS はゆるくつながることが出来るというメリットがあり、そのことも表現できると良いと思う。
- ・ 団体の紹介や取組内容が掲載されているので、すべての団体は難しいにせよ、情報にアクセスできるきっかけがあると良い。
- 市 QRコードなど掲載することでつながりを作っていく仕組みを作っていけると良い。
- ・ 構想は両面刷りか。
- 市 両面刷り、背表紙つき。
- 市 前回お示しした素案から追加した箇所について、53ページの説明がもれていた。子どもの声を見せるページを追加しており、未来へのつながりを示したい。51ページでは、子どもの意見を受け止め、子どもと一緒に取組を進めたいことも書いている。また、第4章の関連文化財群「主な構成文化財」の地図についても、素案では構成文化財リストと地図が別々だったが、見開き2ページで見やすいように整理した。
- ・ 構想が完成したら、価格は設定するのか。
- 市 委員の皆様には配布するが、市民へは販売する予定。現時点では、1部1,500円程度と考えている。
- ・ ネット印刷に発注すると安く完成できる。
- 市 市内業者に発注することになるため、ネット印刷は利用できない。
- 市 パブリックコメントへの回答については、検討会後にも気が付いた点があればお知らせいただきたい。
- ・ 210ページ「調査・研究成果のアーカイブ機能の充実」について、214ページで「学校教育における学習機会の拡充」という項目はあるものの、もっと学校教育を強調できないか。私は大学で学芸員課程の学生を教えており、3年生に博物館に行ったか尋ねるとみんな手を挙げるが、その先につながっていかない。そのため、小学校の時に、調べ学習の後などに文化財や博物館に触れる機会があると良いと思う。また、このような構想に記載されることで、学校の先生も改めて意識するようになると思う。
府中市では、小学校3年生に武蔵府中郷土かるたが配布される。また、該当する場所

にかるたの標識も立てられており、その市内地図もある。私も、これらの場所を兄と4日ほどかけて自転車で回った記憶がある。さらに、かるた大会も開催されていた。八王子では、ボランティアの方が八王子かるたを作っているということに驚き、もっと活用できれば良いのではと思った。小学校3年生、4年生くらいが一番学校教育の記憶が残る年齢なのではないか。

市 学校教育に関する記述も、給食への歴史文化の導入など、他市に比べると充実しているが、もっと充実できればと思う。

- ・ 指導要領が変わったばかりで、地域学習に関する項目に変更があった。先日小学校の社会科の先生から問合せがあり、文化財が大切ということをどう伝えたら良いかと悩んでおられた。歴史文化を大切にする、尊重する心を育むということは大事。
- ・ 中学校の社会科の特別授業で、「地域を知ろう」という講義を持っている。まず、住んでいる地域について知ることがあって、それが学校教育の中に芽生えるという発想が良いのでは。

市 図「実現の方向性と基本目標」で「学ぶ」という語は含めているが、うまく学校教育につなげていけるようにしたい。

(2) 日本遺産認定申請について

市 9月18日に検討会で視察を行い、様々なご意見をいただいた。高尾駒木野庭園では2階に上がることが出来なかったが、指定管理者に写真を提供してもらったため、ご興味のある方は後ほどご覧いただければと思う。

日本遺産については、昨年度は12月半ばに申請の受付が始まり、1月半ばが締切だったが、今年度も同様のスケジュールと考えられる。申請前に検討会でもストーリー案をご提示できればベストだったが、文化庁や東京都にご協力いただき、様々な角度からご指導をいただいて検討を加えている途上。このため、現時点でご提示できるストーリー案は固まっておらず、ストーリーの考え方、および認定後の事業展開の考え方についてまとめた資料でご説明したい。

ストーリーの検討状況について、もともとは高尾山を基本的な骨格に据える想定で進めてきたが、文化庁とのやり取りを踏まえて内部で検討するなかで、国史跡である八王子城は重要なポイントになるという方向になった。ただ、八王子城と高尾山を並べるだけではなかなかストーリーとしてつながらず、もう1つの要素として「桑都八王子」というキーワードを加えた。桑都としての八王子の発展の歴史を踏まえたうえで、高尾山の魅力、八王子城の文化財としての魅力を語れないかと検討を進めている。

「キーワードと検討のポイント」をご覧いただきたい。高尾山は非常に強力なコンテンツで、世界中に認知されている。文化財を見せていく日本遺産という制度のなかでは、すでに出来上がっている観光地としての高尾山とは異なる面を見せていかないと、高尾山を語るのが難しい状況。もう1つの柱になる八王子城についても、国史跡では

あるが、リピートにつなげられる魅力の語り方が難しい。キーワードとなる北条氏照をストーリーでどのように描いていくのかも重要で、まだまだ検討が必要。「桑都」については、現在も見る事が出来るものもあり、文化庁にも興味を持ってもらえているが、ストーリーを読んで訪れた人が実際に何を体験できるのか、ストーリーでも示さないといけない。これらの点は、おそらく申請が始まる直前までブラッシュアップしていくことになる。

日本遺産に認定されると、魅力を発信する様々な事業に取り組むことになる。補助を受けて事業を充実していく主体は協議会。資料に挙げている関係各位と市で一緒に協議会を立ち上げて、部会が具体的な取組みを進めていく。また、専門家や学識者にもアドバイザーとして協力いただくイメージを持っている。実際に事業を実施していく体制、補助対象となる魅力発信推進事業の内容、事業の主体や規模も審査の対象になる。審査を受ける対象事業だけでなく、地域内外を視野にどのような事業を展開していくかということも含めて、現状の倍程度書き込んでいく必要がある。これらの内容を地域活性化計画として書いていく。掲載している各団体にはまだ打診していないが、このような体制で進めていきたいという案をお示している。

市 ストーリーは具体的にお示しできないが、最終的に光の当て方をどうしていくのかが問題となっている。八王子城でまとめきれないほうがいい気もしている。高尾山にしても、現状の高尾山をフィーチャーするというより新たな高尾山の一面を取り上げていく必要がある。高尾山の魅力は語るところがたくさんあるが、他とどこが異なるのかということはかなり出さなければならない。地域活性化計画については、申請する段階でより細かい事業も決定できていると思うので、また情報をお示ししたい。

- ・ 実施体制の図の中には大学連携事業、魅力発信推進事業の項目の中には産学官連携というワードがある。連携する場合、連携する団体の構成員というより、いろいろな発想をしてくれる学生が入ってくると良いと思う。八王子は 23 の大学があり、その力を借りていく姿勢をアピールできるのでは。
- ・ 魅力発信推進事業の案内看板に関連して、約 3 年前に東京都が案内看板に QR コードを貼っていたが、アクセス数や利用率はどの程度だったか。QR コードを貼って多言語化できれば、従来のような仰々しいパンフレット類を作成する必要がなくなるのでは。また、ガイド不在時にも自分たちで見学して回ることが出来る。これを取り入れることが出来れば、安価で手軽なのでは。
- ・ アクセス数等は分析したことはない。
- ・ 海外の博物館ではよく QR コードを貼っている。ガラスケースの外側に付けるため、低予算で済み、扱いやすい。
- ・ 情報を修正しやすいメリットもある。

市 観光庁で案内に関するガイドラインが整備されたようである。QR コード等についても記載があるのではと思われるため、参照してみる。

- ・ 文化庁では、文化財に関する多言語化に対して融資をしている。商工会や地元の出版協会にこの制度を活用していただけると、機動力となるお金が入る。その後どんどん儲けていっていただいても良い。
- 市 行政が QR コードを整備するとなると、地元にお金が回らないデメリットがある。
- ・ なお、この制度は行政を補助対象者としていない。
- 市 日本遺産認定による補助も、まず民間に落として、循環させやすくすることが意図されている。
- ・ 文化財を核にして日本経済が回っていく仕組みを作りたいということが、文化庁、観光庁のねらいではある。
- 市 せっかくなので、そのようなことが可能な市内事業者と組んでいきたい。
- ・ 高尾山には年間 300 万人が訪れているが、落ちるお金はほとんど京王電鉄に入ってしまった、八王子市にほとんどお金が落ちていないのでは。そこで、入山税を取ることが出来ないか。さらに、その資金を多目的に使えるようにしては。
- 市 地元の協議会ではオーバーユースや入山税などの話も出ている。
- ・ 域内で人をどれだけ動かすか。高尾山に来た人にも、出来れば八王子の駅前でお金を落としてもらう。そうすると、やはりポイント制度などのプラットフォームが重要ではないか。インバウンドの方向けにキャッシュレスで動ける仕組みを作ったり、高尾山で入手したものを実際に受け取ることが出来る場所を八王子駅としたり、来訪者を域内で動かすようにする。高尾の事業者だけでなく、八王子駅周辺の事業者も加わったプラットフォームを作ることが大事なのでは。
- その前提として、八王子城、高尾山、桑都という要素が挙がっているわけだが、3つをまとめ込んだストーリーになるのか。また、面白いタイトルでないと訴求できない。
- 市 タイトルは「桑都物語～（サブタイトル）～」。
- ・ 歴史的な観点からすると桑都は良いキーワードだと思うが、観光で活用する観点からすると、桑都というキーワードを導入することで広がるチャンスが思い浮かぶようにしたほうが良いのでは。また、桑都はどのようなものと理解したら良いか。認定を受ければ観光業者が必ずルートを作り始めると思う。桑都が八王子のアイデンティティであることは分かるが、外部の方が桑都を訪れなければならない魅力が分からない。
- 市 絹産業で真っ向勝負は難しいため、桑都であることに加えて無形の文化が栄えたことも書く。ただ、それでも無形の文化で勝負するのは難しい。若い世代の方から、昔の染め物工場のオープンファクトリーなどを展開しながら、ディープな地域を回って染め体験をするような仕組みが芽生え始めており、そのような仕組みを育てていきたい。
- ・ たとえば、「山のふもとに花開いた、東京で一番サステイナブルでありながら歴史的な都市を八王子に行けば見られる」と説明すれば、では足を運んでみようかと思うのでは。そのように魅力を示すような看板を作る必要があり、これからの価値をしっかりと示す必要がある。盆地は盆地でも他と違うものであることや、小京都とも違う中世

末期のまちであることをどのように表現していくか。今ある情報を集約して正しい看板を立てることは大事だが、観光の面から、これから整備すべき方向性を示す魅力を描いたほうが良いのでは。そのほうが、実施体制に含まれる人たちもアイデアが浮かぶ。このままでは現状維持のビジネスで終わる。

- ・ 江戸時代に「都」という言葉を使ったことは意味があるはず。江戸を東都といったが、八王子は多摩を中心にした中核都市ということで、絹や桑という主たる産業があって成り立っていた。そこで桑都という固有名詞を使うようになったのでは。そのような視点で考えてみても良いのでは。文化庁で日本遺産を評価する際に、日本の文化を担っているだけの意味があるかどうか重要だろう。石見銀山や大谷石は、日本中どこに行っても 10 人中 10 人知っている。そのようなストーリーをどのように描くか。

- ・ ストーリーにおける体験とは、どこまで体験できることを指すのか。
- 市 養蚕農家さんは大々的に受け入れる体制ではなく、現状小学生を受け入れる程度。
- ・ 養蚕、染色、織物を見ることが出来るようにしようと思うと、南北のつながりという八王子の弱点の解決が必要となる。

市 養蚕を資源化できれば良いが、現状オープンに資源化するのが難しい。織物工場もキャパシティ的に厳しい。

- ・ 拠点という視点だと、中央線や京王線の沿線に集中してしまい、滝山や川口など北部に行き届かない印象。もう少し南北をつなげられないか。

市 今後の取組みとしては南北をつないでいくことは必須と思うが、認定されたらすぐ市内の広域で体験できるように出来るかという点で厳しい。

- ・ 養蚕農家でお話を聞く機会があった。蚕は繊細な生き物で、ある程度成長するまでは人から与えられる振動でも死んでしまうほど繊細であるため、養蚕を観光資源化する機会は非常に限られている。蚕が食事をしているところを見られる期間も、1 か月に満たない。このように、養蚕にフィーチャーしてしまうとかなり限定的になる。

市内のネクタイ研究所が、シルクの国産オリジナルネクタイづくりという企画を月 1 回開催していて、参加者が作業を行うわけではないが、自分で柄を選ぶことが出来る。先代が日本中から集めた機織り機や、養蚕から撚糸、織りまでのストーリーを全部見られる民間の資料館が市内にある。こういったことを踏まえた体験を整備していくことが現実的では。

染物体験は市内にかなり存在するため、受け入れ事業者のマネタイズが課題。オープンファクトリーに関わったことがあるが、単発的でなく継続的に実施しようとするお金がどう落としていくかが課題。桑都とは里山を中心とした循環型社会と捉えるような視野の広がりを持てれば良い。サステイナブルなまちとして知られる上勝町はリサイクル率が高いが、八王子市も実はリサイクル率が高い。学びを提供できるようなラーニングツアーのようなものが出来れば良い。

- ・ 事前に東京都に示してもらった桑都の切り口は、皆様のご指摘とずれているかもしれ

ない。市が考えていたのは、進軍に備えて築かれた八王子城という歴史的な状況を踏まえたいということ、氏照によって絹産業が盛んになった景色がもたらされ、その景色を感じてもらいたいということ、それに裏打ちされた高尾山の信仰のこと、このような賑わいによって人が集まり車人形や芸者の文化が生まれ、桑都としての独自の賑わいが生まれていったこと、という大きく4つのストーリーだった。ストーリーと活用事業がリンクしていないと文化庁に指摘を受けるため、しっかり理屈を通していく必要がある。サステイナブルという視点を含めようとする、若干ずれていってしまう。日本遺産に認定されれば八王子は面白いことを展開するのだということを見せる必要がある。

- ・ 人寄せのできるストーリーであることは重要なのか。
 - ・ 高尾山は観光地としてすでに成立しているため、このうえなぜ認定や補助が欲しいのかと思われがち。日本遺産をきっかけに、高尾山のアナザーストーリーが始まって、八王子がもっと活性化していくことを見せる必要がある。認定自治体でも、認定後に引き続き文言修正など行っているほどで、まずは投資したいと思われることが大事。
 - ・ 文化庁は、資本収益率が高ければ投資しようという発想を持っている。そこに行ったら何が見られるのかが重要。八王子の文化資本の価値を高める必要がある。
 - ・ 桑や蚕や絹は一般的に斜陽産業だと思われていて、お金を生み出せるとは思われていない。八王子はそこをあえて突破して、桑というキーワードで攻めてみては。現在、食用桑の開発や実用の試みも進んでいる。ほかに、糸繰り体験を提供するところもある。産業的なものも、趣味的なものに広げていけば若い人が集まる。秩父でも、昔からある織物をデザイナーが新しいデザインにしたら若い人が着るようになった。また、現在残っている桑畑も、誰もが来たくなる貴重な桑畑の風景が見られる素晴らしい里ということで打ち出せば、訪れたいくなるのでは。
- 市 高尾山の現状の観光 PR では歴史文化の価値づけは不十分で、付加価値を与えていく必要がある。日本遺産は伸びしろを重視していて、新しいものを創造していくという伸びしろ感が大事。高尾山には八王子の文化を実際に見ることが出来る機会が月1回程度あり、祭りのような年1回の行事より体験が充実しているといえる。
- ・ 文化のフレームワークを新しいものにすれば価値が出る。
 - ・ 八王子市歌の歌詞に「桑の都」という言葉が含まれているが、八王子駅のコンコースで市歌を放送するなどはどうか。

3. その他、閉会

- 市 次回検討会は1月末～2月を予定している。歴文構想は形が見えてきて、策定後は実行計画を作っていくことになる。委員の皆様には、長きにわたり様々なご意見をいただき、ここまでこぎつくことが出来た。ありがとうございます。

以上